

令和 3 年 6 月 30 日現在

機関番号：84407

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18H03046

研究課題名(和文) HIV感染症の急速な病態進行に関わるウイルス側因子・宿主因子の解析

研究課題名(英文) Analysis of viral and host factors affecting the rapid disease progression of novel HIV variant infection.

研究代表者

川畑 拓也 (Kawahata, Takuya)

地方独立行政法人 大阪健康安全基盤研究所・微生物部・主幹研究員

研究者番号：80270768

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,400,000円

研究成果の概要(和文)：我々は特徴的な2つの突然変異、すなわちp6領域の5アミノ酸重複挿入変異とインテグラーゼ領域の終止コドンへの点突然変異をもつHIVに感染した患者を発見した。この患者集団は、急性期の血中HIV量が通常より有意に高く、感染から発症までの期間が約1.5か月と極めて短かった。これらの原因を突き止めるために、HIVの病態進行に関わると報告のある遺伝子についてゲノム多型解析を行ったが、これらのHIV感染患者と一般的な日本人との間に有意な差はみられなかった。さらに、このHIV変異株の臨床分離株と、臨床分離株遺伝子全長を持つ感染性クローンについて感染実験を行ったが、病原性を説明できる結果は得られなかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

HIV感染症では、HIVがヒトのTリンパ球数を徐々に減少させ、通常は8～10年程度の潜伏期間を経てエイズを発症する。しかし、感染後急速にエイズを発症したり、発症までの期間が20年以上かかったりするなど多様な臨床病型があり、その多様さには宿主であるヒトにおける特定の遺伝的背景が関与することがわかってきた。我々が発見した、エイズ発症までの期間が極端に短いHIV感染者集団は、遺伝学的に極めて近縁な変異HIVに感染していたため、急速な病態進行や感染拡大の原因となる高い血中ウイルス量がウイルス側の性質による可能性があり、そのメカニズムを明らかにすることは、学術的・社会的に大きな意義がある。

研究成果の概要(英文)：We found HIV-infected patients with a fast-growing condition and two characteristic mutations, a 15-nucleotide insertion into p6, the gag-pol transframe region, resulting in duplication of the N-QSRPE-C pentapeptidic sequence in the p6 open reading frame and a mutation changed the pol stop codon into a Gln-coding codon (TAG to CAG). In this population, blood HIV levels in the acute phase were significantly higher than normal, and the time from infection to onset was extremely short, about 1.5 months. To determine these causes, we performed genomic polymorphism analysis on genes reported to be involved in the progression of HIV pathology, but there were not significant differences between these HIV-infected individuals and the general Japanese. Furthermore, infection experiments were conducted on clinical isolates of this HIV mutant strain and infectious clones prepared based on the clinical isolates, but unfortunately no results that could explain the pathogenicity were obtained.

研究分野：ウイルス学、微生物学、社会医学、予防医学、疫学、公衆衛生学

キーワード：HIV エイズ発症 病態進行 遺伝子変異 宿主側因子

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究の着想に至った経緯

我々は2011年以降に大阪府南部でMSM (Men who have sex with men) が多数を占める感染者集団に、特徴のある一群があることに気がついた。契機は急性発症例の集積で、高い血中ウイルス濃度で診断された後に急速にCD4リンパ球数が低下し、診断から1ヶ月程度でエイズ発症となる例が散見された。中には抗体陰性の期間が通常よりも長く、世界的にも報告が希なセロネガティブ感染例も含まれた。遺伝子解析の結果、当該患者やその他の感染者の感染したHIVに、ウイルスのbuddingに関するp6Gag領域の特徴的な5アミノ酸重複挿入変異(p6変異)とIN領域の終止コドンへの点突然変異(IN変異)が共通して認められた(図1)。分子疫学解析の結果、大阪南部で同時期に感染が診断された集団に同じ特徴的な変異を有する症例が見出され、これら遺伝的に非常に近縁なHIVに感染した患者に、低い抗HIV抗体価・HIV核酸増幅検査陽性例や、診断後短期間で発症した例が集積していることが明らかとなった(Haruyo Mori, Takuya Kawahata, et al, AIDS. 2015, 29:1717-19.)。感染者の特長は「血中ウイルス量が多い」「急速に発症する」事で、同期的に感染が起こっていることから、当該変異HIVが伝播しやすい特性を持っている可能性が示唆された。



当該変異HIVが遺伝的に非常に近縁な集団であったことから、もしもウイルス側の要因で血中ウイルス量が高く、病態進行が通常よりも早いのであるなら、当該変異HIVが急速に拡大する可能性があり、公衆衛生的にも対策に急を要する課題と考え研究に着手した。

(2) 関連する国内外の研究動向と本研究の位置づけ

HIV感染症における発症の早期化のメカニズムは、主にHIV特異的CTL活性とその逃避変異の蓄積で説明されてきたが(Goulder PJ, et al, Nat Med. 1997 3(2):212-7.)、ウイルス側の因子については逃避変異の蓄積以外に報告がなかった。HIV特異的CTL活性とその逃避変異の蓄積で説明できる報告の中には、特定のHIVサブタイプに感染した者の間で、病態の進行が自然経過よりも早まる事例も見受けられるが(Kouri V, et al, EBioMedicine. 2015 28;2(3):244-54., Mlisana K, et al, Clin Infect Dis. 2014 1;59(9):1322-31.)、我々が発見した変異HIVに共通して感染していた患者群ほど発症までの期間が短く、遺伝学的にも極めて近縁なHIVの感染が報告された例は、他に存在しなかった。

(3) これまでの研究活動

我々は2014年からの3年間に、2011年から2016年に検出された変異HIV感染症例32例のうち、21例に関して予備的な検討を行った。感染時期が推定できた症例では、初感染からエイズ発症までの期間が6ヶ月(0.5年)と、非常に短いことを明らかにした。また、6例で急性感染期にCD4数が200/μL以下に急速に低下していた。感染初期で検出された9例の変異HIVのウイルス量は平均8.4×10⁶copies/mlで、通常のHIVの感染初期(2.1×10⁶copies/ml)と比較して4倍有意に高かったが、慢性期で検出された12例の変異HIVのウイルス量は通常のHIVと比較し有意な差はみとめなかった。ウイルス変異に起因すると考えられる発症までの期間が短いエイズ患者の集積は世界初の報告であり、また、変異HIVに共通する特徴的なp6変異とIN変異は世界的にも独特で、ウイルス伝播を正確に分子疫学的に追跡できた。一方、これら2つの変異を導入し作成した感染性クローンの解析より、細胞におけるA3Gの発現量はp6変異株、IN(Vif K22N)変異株の両方が野生株と比較して増減が認められないという結果が得られた。このことにより、IN/Vifの遺伝的变化が宿主のHIV増殖制御因子A3Gにより強く干渉することで変異HIV感染者に特徴的な早い病期の進行に影響するという仮説は否定的となり、変異HIVに共通する特徴的な遺伝的变化のみで早い病態の進行を直接的に説明するには宿主免疫との相互作用を加味する必要があった。宿主因子に関しては、変異HIV感染者のうちこれまでに同意が得られ採血できた12例のゲノム遺伝子のうち、HIV感染に関わると報告のあった遺伝子(HLA Class I・Class II、CCR5、CCR2、CCL5/RANTES、IL-4)についてゲノムの多型解析を行った結果、調べた遺伝子のうちIL-4を除く全ての因子において、病態進行加速と関連が報告されている多型のアレル頻度が高い傾向にあることが明らかとなった。中でも、血中ウイルス量の抑制と関連があると報告のあるHLA-C5' (rs9264942)のCアレルの頻度が有意に低く、当該変異HIV感染者集団で排除されていたことを明らかにした。しかし、信頼性の高い研究結果を得るためには検体数を増やし、解析に厚みを増す必要がある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、遺伝的に非常に近縁な変異 HIV に感染した集団の病態進行が通常よりも早かった事例を、通常の病態進行を示す感染者と対比し、集積した患者の臨床情報、宿主側因子、ウイルス側因子、それぞれについて詳しく解析することで、通常とは異なる急速な病態進行のメカニズムを分子レベルで解明することである。

HIV (ヒト免疫不全ウイルス) 感染症は、HIV がヒトの CD4 陽性 T リンパ球に感染しこれを破壊することで血中 T リンパ球数を減少させる。通常は 8~10 年といわれる長い潜伏期間を経て免疫システムが破壊されることにより、免疫不全が引き起こされ、日和見感染症や腫瘍の発症をもって後天性免疫不全症候群 (エイズ) になる。HIV は潜伏感染するために、HIV の体内からの排除と完全な治癒は今のところ難しい。抗 HIV 薬が多数開発され治療法が確立された今日、発症前に感染を診断して早期に治療を開始すればエイズを発症することはなくなった。しかしながら、診断の遅れから発症して初めて感染に気がつく例が日本では毎年の新規報告数の約 3 割存在することが、公衆衛生上の問題となっている。HIV に感染すると、急速にエイズを発症したり発症までの期間が 20 年以上かかったりするなど、多様な臨床病型がある。数々のコホート研究により、宿主における特定の遺伝的背景が発症に関与することがわかってきた。例えば、長期未発症者では CCR5 に変異が認められる。HIV 特異的細胞障害性 T 細胞 (CTL) の活性が長期エイズ未発症者で高いとの報告もある。この原因として HLA クラス I 分子に結合する HIV タンパク質の CTL エピトープが変異 (逃避変異) し、CTL 活性から逃れるというメカニズムが報告された。しかし、病期進行を制御するメカニズムは十分に解明されていない。

病態進行を研究するためにはコホート研究が極めて役立つ。発症を遅くさせる因子については多くの研究が発表されているが、発症を早める要因についての研究は進んでいない。その理由は、HIV 感染は不顕性であることが多いため、感染時期が特定できないためである。

本研究は世界的に珍しい急速な病態進行を呈する HIV 感染者群に焦点をあて、臨床病型、宿主因子、ウイルス学的解析から変異 HIV の高い病原性の原因を解明する。急速に病態を進行させるウイルスは血中ウイルス量が多いため、地域的に急速な感染拡大を引き起こすリスクがある。急速な病態進行メカニズムを明らかにすることは、HIV 感染拡大を防ぐという公衆衛生学的な視点からも大きな意義がある。

3. 研究の方法

(1) 臨床病型に関する研究

これまで構築・維持してきた研究ネットワークのエイズ診療拠点病院 (国立病院機構大阪医療センター、堺市立総合医療センター、奈良県立医科大学附属病院) において変異 HIV 感染患者を探索・同定し、患者の同意を得て臨床情報を収集・分析するとともに、ヒトゲノム遺伝子解析用検体を採取する。変異 HIV 感染が明らかとなっている 32 例のうち、すでに臨床情報収集とゲノム解析を行った 12 例を除いた残り 20 例と、研究期間中の探索で見つかるであろう新たな変異 HIV 感染患者から同意を得て臨床情報 (生年月、性別、国籍、診断日、最後に陰性結果を得た HIV 検査日、推定感染経路、推定感染時期 (年月)、エイズ発症の有無、エイズ発症時期 (年月)、抗 HIV 治療開始日、B 型および C 型肝炎の有無、血液検査結果 (白血球数、赤血球数、Hb、Ht、血小板数、Aib、AST、ALT、ALP、LDH、T-Bil、BUN、Cr)、CD4 陽性 T リンパ球数、血中 HIV-RNA 量、HIV 抗原・抗体検査、HIV-1 ウェスタンブロット法) を収集・分析し、ヒトゲノム遺伝子解析用検体を採取する。対照として同時期に近縁の流行株による急性 HIV 感染者 20 例と比較する。変異 HIV 感染患者の間でも病態進行に差があるため、症例数が増えたら病態をさらに細分化した解析を行う。

(2) 宿主因子に関する研究

変異 HIV に感染した患者より同意を得て採取したゲノム解析用検体を用い、患者の宿主ゲノムのうち、HIV 感染の病態進行に関わると報告のあった遺伝子 (HLA Class I・Class II、CCR5、CCR2、CCL5/RANTES、IL-4) についてゲノムの多型解析を行い、さらに宿主因子と変異 HIV タンパクの関連についても解析する。さらに、変異 HIV 感染患者の間でも差がみられる、病態進行の緩急の差についても検討を行う。

(3) ウイルス因子の解析

先行研究で作成した変異 HIV が共通してもつ HIV の budding に関わる p6 Gag 領域の特徴的な 5 アミノ酸の重複挿入変異 (p6 変異) とインテグラーゼ領域の終止コドンへの点突然変異 (IN 変異) の 2 つの変異を両方、あるいは単独で導入した 3 種類の感染性 HIV クローンに加え、変異 HIV の遺伝子全長をもつ感染性クローンを新たに作出しそのウイルス学的性状を解析する。

(4) 変異 HIV 感染者の探索

当該変異 HIV に感染している者を探す目的で、泌尿器科や皮膚科を受診する患者で、HIV 感染についてハイリスクな行動を取っている者に対して HIV 検査の受検を勧奨した。また、大阪府が実施するゲイ・バイセクシャル男性向け HIV・性感染症検査事業に併せ、協力クリニックにおいて HIV 検査を通常検査で提供した。それらの試みで HIV 陽性と判明した検体を含む、地方独立行政

法人大阪健康安全基盤研究所で実施する HIV 確認検査における陽性検体の HIV に関して、分子疫学解析を行い、変異 HIV を探索する。

4. 研究成果

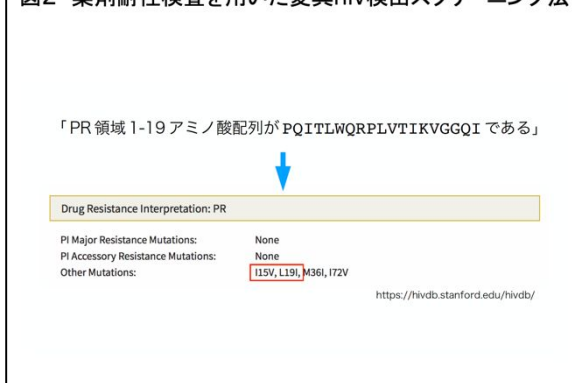
(1) 臨床病型に関する研究

これまでに変異 HIV 感染が明らかとなっている患者 32 例と、新たに判明した 1 例を加えた 33 例のうち、本研究着手前までに臨床情報収集とゲノム解析を行った 12 例に加え、2018 年度は 7 例（合計 19 例）の患者から研究同意を得て、ゲノム解析用血液を採取した。一部の患者の臨床情報については、協力医療機関からの提供が遅れた。また新たに大阪市立総合医療センター、兵庫医科大学病院との協力体制を確立した。

2019 年度はさらに 1 例（合計 20 例）の患者から研究同意を得てゲノム解析用血液を採取し、臨床情報を得た。これまで変異 HIV を検索・同定するには、血中ウイルス・プロウイルスの遺伝子の分子疫学解析を行っていたが、拠点病院においては必ずしも実施できる方法ではない。そこで、より検索が容易となるような臨床的な検出方法の開発を検討した。その結果、治療のための薬剤耐性検査で調べる、HIV 遺伝子のプロテアーゼ領域と逆転写領域のアミノ酸配列を用いた変異 HIV 感染患者の検出スクリーニング法（プロテアーゼ領域の薬剤耐性検査において、PI の耐性変異以外の「他の突然変異」に「I15V」と「L19I」の両方の変異を認めるもの。）を新たに開発した（図 2）。

2020 年度は新たに 3 例（うち 1 例は 2019 年度の検体）の変異 HIV 感染を同定し、ゲノム遺伝子解析対象者は残り 16 例となったが、新型コロナウイルスの流行により拠点病院の業務が過多となるなどの理由から、新たな検体採取・臨床情報の収集が進まなかった。また、昨年度開発した薬剤耐性検査を利用した変異 HIV 感染患者検出スクリーニング法を、複数の拠点病院へ導入することを計画していたが、こちらも新型コロナウイルスの影響により進めることができなかった。

図2 薬剤耐性検査を用いた変異HIV検出スクリーニング法



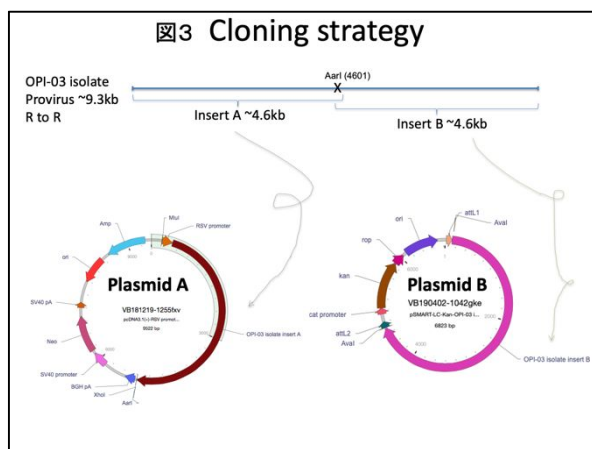
(2) 宿主因子に関する研究

本研究開始までに、12 例の変異 HIV 感染患者の宿主ゲノムのうち、HIV 感染の病態進行に関わると報告のあった遺伝子（HLA Class I・Class II、CCR5、CCR2、CCL5/RANTES、IL-4）についてゲノムの多型解析を行った。2018 年、新たに検体が得られた 7 例について上記遺伝子のゲノム多型解析を行い、総合的に評価したところ、臨床的に病態進行が早い変異 HIV 感染患者の宿主側因子多型の保有状況と、一般的な日本人の保有状況の間に有意な差はみとめられなかった。このことは、宿主側の因子では無く、ウイルス側の因子により変異 HIV の病態進行が早くなっている可能性があることを意味する。よって、ウイルス側の因子の検討を進めつつ、宿主側因子についても、さらに慎重に検討を行う事とした。2019 年には、新たに 1 例の検体が得られたので、宿主遺伝子のゲノム解析を行った。しかしながら、前述のとおり、新型コロナウイルスの流行により新たな検体採取・臨床情報の収集が進まなくなってしまった。また、宿主ゲノム解析の対照として採取を予定していた、近縁の流行株による急性 HIV 感染者のゲノム解析用の検体採取もできなかった。

(3) ウイルス因子の解析

先行研究で作成した変異 HIV が共通してもつ、HIV の budding に関わる p6 Gag 領域の特徴的な 5 アミノ酸の重複挿入変異（p6 変異）とインテグラーゼ領域の終止コドンへの点突然変異（IN 変異）の 2 つの変異を両方、あるいは単独で導入した 3 種類の HIV-1 感染性クローンをを用いた実験の結果、新型バリエーションの解析には変異 HIV の遺伝子全長をもつ感染性プロウイルスクローンの作成が必要と考えられた。そこで、2018 年度、long PCR による増幅からの全長のクローニングを試みたが、PCR による増幅が困難であった。そこで、4,601nt にある制限酵素サイト AarI を重複するようにプロウイルスの前と後ろ半分ずつ合成することを試み、両者のプラスミドへのクローニングに成功した。（図 3）

2019 年度、前年度作成した変異 HIV の遺



伝子全長の前半と後半の二つの断片を、制限酵素サイト *AarI* を利用して全長プロウイルスとしてプラスミドにクローニングすることを試みた。できあがった全長プロウイルスを 293T 細胞に導入し、感染性のウイルスクローンを産生することができるかを検証したが、全長のウイルスクローンは産生されなかった。

2020 年度、引き続き変異 HIV の遺伝子全長のプロウイルスとしてプラスミドにクローニングすることを試みた。全長プロウイルスを 293T 細胞に導入し、ウイルスの産生を行わせたところ、感染性のあるウイルスが産生され、当該変異 HIV の感染性クローンの樹立に成功した (OPI-03 株)。この感染性クローンと元の変異 HIV の臨床分離株、一般的な HIV-1 分離株を、ヒト末梢血単核球 (PBMC)、MAG1/CCR5 細胞 (MAG1C5 細胞)、iPS 細胞由来単球様細胞 (K-ML2 細胞) に感染させ増殖性を比較検討したが、今のところ病原性を説明できるような結果は得られていない。

(4) 変異 HIV 感染者の探索

2018 年、診療所・クリニックにおいて 960 名に HIV 検査を提供し、HIV-1 陽性と診断された 9 名を含む、遺伝子解析可能であった 75 例の確認検査陽性例の分子疫学解析を行ったが、当該変異 HIV-1 は含まれなかった。

2019 年、診療所・クリニックにおいて 557 名に HIV 検査を提供し (図 4)、HIV-1 陽性と診断された 18 名を含む、遺伝子解析可能であった 62 例の確認検査陽性例の分子疫学解析を行った結果、当該変異 HIV-1 を新たに 1 例検出した。

2020 年、診療所・クリニックにおいて 672 名に HIV 検査を提供し、HIV-1 陽性と診断された 13 名を含む、遺伝子解析可能であった 53 例の確認検査陽性例の分子疫学解析を行った結果、当該変異 HIV-1 を新たに 2 例検出した。

(5) 今後の研究方針

本年度で本研究課題の年限は終了であるが、いまだ解析できていない症例が 16 例残っている。また年間の件数は少ないが、当該変異 HIV 感染症例も検出が続いている。新型コロナウイルス感染症の流行に関しては先を見通せない状況ではあるが、研究予算と研究機会を作って、引き続きこの感染者集団の特異な病態進行と遺伝的背景との関連と、ウイルスの性状についての検討を続けたい。



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計55件（うち査読付論文 55件 / うち国際共著 22件 / うちオープンアクセス 36件）

1. 著者名 Uttayamakul Sumonmal, Reawrang Sarinee, Nitiyanontakij Ravee, Phadungsombat Juthamas, Nakayama Emi, Suttha Patama, Moolasart Visal, Shioda Tatsuo	4. 巻 73
2. 論文標題 Molecular Characteristics of Dengue Viruses in Patients Hospitalized at the Bamrasnaradura Infectious Diseases Institute, Thailand	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Infectious Diseases	6. 最初と最後の頁 411 ~ 420
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7883/yoken.JJID.2020.063	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Suzuki Keita, Huits Ralph, Phadungsombat Juthamas, Tuekprakhon Aekkachai, Nakayama Emi E., van den Berg Riemsdijk, Barb? Barbara, Cnops Lieselotte, Rahim Rummana, Hasan Abu, Iwamoto Hisahiko, Leungwutiwong Pornsawan, van Esbroeck Marjan, Rahman Mizanur, Shioda Tatsuo	4. 巻 17
2. 論文標題 Promising application of monoclonal antibody against chikungunya virus E1-antigen across genotypes in immunochromatographic rapid diagnostic tests	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Virology Journal	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12985-020-01364-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Tumkosit Uranan, Siripanyaphinyo Uamporn, Takeda Naokazu, Tsuji Motonori, Maeda Yusuke, Ruchusatsawat Kriangsak, Shioda Tatsuo, Mizushima Hiroto, Chetanachan Prukswan, Wongjaroen Pattara, Matsuura Yoshiharu, Tatsumi Masashi, Tanaka Atsushi	4. 巻 94
2. 論文標題 Anti-Chikungunya Virus Monoclonal Antibody That Inhibits Viral Fusion and Release	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Virology	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1128/JVI.00252-20	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Watanabe Satoru, Fujino Masayuki, Saito Yohei, Ahmed Nursarat, Sato Hirotaka, Sugimoto Chie, Okamura Tomotaka, Hanaki Kenichi, Nakayama Emi E., Shioda Tatsuo, Matsushima Kouji, Ansari Aftab A., Villinger Francois, Mori Kazuyasu	4. 巻 205
2. 論文標題 Protective Immune Responses Elicited by Deglycosylated Live-Attenuated Simian Immunodeficiency Virus Vaccine Are Associated with IL-15 Effector Functions	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Journal of Immunology	6. 最初と最後の頁 1331 ~ 1344
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4049/jimmunol.1901431	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kubota Koketsu Ritsuko, Terada Yutaka, Yunoki Mikihiro, Sasaki Tadahiro, Nakayama Emi E., Kamitani Wataru, Shioda Tatsuo	4. 巻 61
2. 論文標題 Neutralizing and binding activities against SARS CoV 1/2, MERS CoV, and human coronaviruses 229E and OC43 by normal human intravenous immunoglobulin derived from healthy donors in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Transfusion	6. 最初と最後の頁 356 ~ 360
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/trf.16161	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Phadungsombat Juthamas, Imad Hisham, Rahman Mizanur, Nakayama Emi E., Kludkleeb Sajikapon, Ponam Thitiya, Rahim Rummana, Hasan Abu, Poltep Kanaporn, Yamanaka Atsushi, Matsee Wasin, Piyaphanee Watcharapong, Phumratanaprapin Weerapong, Shioda Tatsuo	4. 巻 12
2. 論文標題 A Novel Sub-Lineage of Chikungunya Virus East/Central/South African Genotype Indian Ocean Lineage Caused Sequential Outbreaks in Bangladesh and Thailand	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Viruses	6. 最初と最後の頁 1319 ~ 1319
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/v12111319	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Imad Hisham Ahmed, Phumratanaprapin Weerapong, Phonrat Benjaluck, Chotivanich Kesinee, Charunwatthana Prakaykaew, Muangnoicharoen Sant, Khusmith Srisin, Tantawichien Terapong, Phadungsombat Juthamas, Nakayama Emi, Konishi Eiji, Shioda Tatsuo	4. 巻 102
2. 論文標題 Cytokine Expression in Dengue Fever and Dengue Hemorrhagic Fever Patients with Bleeding and Severe Hepatitis	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The American Journal of Tropical Medicine and Hygiene	6. 最初と最後の頁 943 ~ 950
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4269/ajtmh.19-0487	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Imad Hisham A, Phadungsombat Juthamas, Nakayama Emi E, Kludkleeb Sajikapon, Matsee Wasin, Ponam Thitiya, Suzuki Keita, Leungwutiwong Pornsawan, Piyaphanee Watcharapong, Phumratanaprapin Weerapong, Shioda Tatsuo	4. 巻 6
2. 論文標題 Chikungunya Manifestations and Viremia in Patients Who Presented to the Fever Clinic at Bangkok Hospital for Tropical Diseases during the 2019 Outbreak in Thailand	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Tropical Medicine and Infectious Disease	6. 最初と最後の頁 12 ~ 12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/tropicalmed6010012	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sakuragi Sayuri, Kotani Osamu, Yokoyama Masaru, Shioda Tatsuo, Sato Hironori, Sakuragi Jun-ichi	4. 巻 22
2. 論文標題 Identification of a Novel Cis-Acting Regulator of HIV-1 Genome Packaging	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Molecular Sciences	6. 最初と最後の頁 3435 ~ 3435
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijms22073435	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Iwamoto Yoshihiro, Seki Yohei, Taya Kahoru, Tanaka Masahiro, Iriguchi Shoichi, Miyake Yasuyuki, Nakayama Emi E., Miura Tomoyuki, Shioda Tatsuo, Akari Hirofumi, Takaori-Kondo Akifumi, Kaneko Shin	4. 巻 21
2. 論文標題 Generation of macrophages with altered viral sensitivity from genome-edited rhesus macaque iPSCs to model human disease	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Molecular Therapy - Methods & Clinical Development	6. 最初と最後の頁 262 ~ 273
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.omtm.2021.03.008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kato Tadatsugu, Yoshihara Yujiro, Watanabe Dai, Fukumoto Masaji, Wada Keiko, Nakakura Takahiro, Kuriyama Keiko, Shirasaka Takuma, Murai Toshiya	4. 巻 26
2. 論文標題 Neurocognitive impairment and gray matter volume reduction in HIV-infected patients	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of NeuroVirology	6. 最初と最後の頁 590 ~ 601
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s13365-020-00865-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hirota Kazuyuki, Watanabe Dai, Koizumi Yusuke, Sakanashi Daisuke, Ueji Takashi, Nishida Yasuharu, Takeda Mami, Taguri Takahiro, Ozawa Kentaro, Mikamo Hiroshige, Shirasaka Takuma, Uehira Tomoko	4. 巻 26
2. 論文標題 Observational study of skin and soft-tissue Staphylococcus aureus infection in patients infected with HIV-1 and epidemics of Panton-Valentine leucocidin-positive community-acquired MRSA infection in Osaka, Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Infection and Chemotherapy	6. 最初と最後の頁 1254 ~ 1259
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jiac.2020.07.007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tsuji Kohei, Owusu Kofi Baffour-Awuah, Kobayakawa Takuya, Wang Rongyi, Fujino Masayuki, Kaneko Moemi, Yamamoto Naoki, Murakami Tsutomu, Tamamura Hirokazu	4. 巻 28
2. 論文標題 Exploratory studies on CA-15L, an anti-HIV active HIV-1 capsid fragment	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Bioorganic & Medicinal Chemistry	6. 最初と最後の頁 115488 ~ 115488
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bmc.2020.115488	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kobayakawa Takuya, Ebihara Kento, Tsuji Kohei, Kawada Takuma, Fujino Masayuki, Honda Yuzuna, Ohashi Nami, Murakami Tsutomu, Tamamura Hirokazu	4. 巻 28
2. 論文標題 Bivalent HIV-1 fusion inhibitors based on peptidomimetics	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Bioorganic & Medicinal Chemistry	6. 最初と最後の頁 115812 ~ 115812
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bmc.2020.115812	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tsuji Kohei, Wang Rongyi, Kobayakawa Takuya, Owusu Kofi Baffour-Awuah, Fujino Masayuki, Kaneko Moemi, Yamamoto Naoki, Murakami Tsutomu, Tamamura Hirokazu	4. 巻 30
2. 論文標題 Potent leads based on CA-19L, an anti-HIV active HIV-1 capsid fragment	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Bioorganic & Medicinal Chemistry	6. 最初と最後の頁 115923 ~ 115923
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bmc.2020.115923	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kobayakawa Takuya, Yokoyama Masaru, Tsuji Kohei, Fujino Masayuki, Kurakami Masaki, Boku Sayaka, Nakayama Miyuki, Kaneko Moemi, Ohashi Nami, Kotani Osamu, Murakami Tsutomu, Sato Hironori, Tamamura Hirokazu	4. 巻 11
2. 論文標題 Small-Molecule Anti-HIV-1 Agents Based on HIV-1 Capsid Proteins	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Biomolecules	6. 最初と最後の頁 208 ~ 208
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/biom11020208	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yoshiyama Hironori, Ueda Keiji, Komano Jun, Iizasa Hisashi	4. 巻 2020
2. 論文標題 Infection-Associated Cancers	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Oncology	6. 最初と最後の頁 1~2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1155/2020/4979131	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Gee P, Lung MSY, Okuzaki Y, Sasakawa N, Iguchi T, Makita Y, Hozumi H, Miura Y, Yang LF, Iwasaki M, Wang XH, Waller MA, Shirai N, Abe YO, Fujita Y, Watanabe K, Kagita A, Iwabuchi KA, Yasuda M, Xu H, Noda T, Komano J, Sakurai H, Inukai N, Hotta A.	4. 巻 11
2. 論文標題 Extracellular nanovesicles for packaging of CRISPR-Cas9 protein and sgRNA to induce therapeutic exon skipping	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Nature Communications	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41467-020-14957-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okai Naoko, Miyamoto Katsushiro, Tomoo Koji, Tsuchiya Takahiro, Komano Jun, Tanabe Tomotaka, Funahashi Tatsuya, Tsujibo Hiroshi	4. 巻 33
2. 論文標題 VuuB and IutB reduce ferric-vulnibactin in Vibrio vulnificus M2799	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BioMetals	6. 最初と最後の頁 187~200
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10534-020-00241-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 11. 榑田宏幸、中内崇夫、矢倉裕輝、渡邊 大、上平朝子、白阪琢磨	4. 巻 95
2. 論文標題 HIV-1, HBV共感染血液透析症例におけるテノホビル血中濃度推移を測定した一症例	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 感染症学雑誌	6. 最初と最後の頁 319-322
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Lee Kenichi, Nakayama Shu-Ichi, Osawa Kayo, Yoshida Hiroyuki, Arakawa Soichi, Furubayashi Kei-Ichi, Kameoka Hiroshi, Shimuta Ken, Kawahata Takuya, Unemo Magnus, Ohnishi Makoto	4. 巻 74
2. 論文標題 Clonal expansion and spread of the ceftriaxone-resistant <i>Neisseria gonorrhoeae</i> strain FC428, identified in Japan in 2015, and closely related isolates	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Antimicrobial Chemotherapy	6. 最初と最後の頁 1812 ~ 1819
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jac/dkz129	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kawahata Takuya, Kojima Yoko, Furubayashi Keiichi, Shinohara Koh, Shimizu Tsunehiro, Komano Jun, Mori Haruyo, Motomura Kazushi	4. 巻 25
2. 論文標題 Bejel, a Nonvenereal Treponematosi s, among Men Who Have Sex with Men, Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Emerging Infectious Diseases	6. 最初と最後の頁 1581 ~ 1583
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3201/eid2508.181690	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Matsuoka Saori, Nagashima Mami, Sadamasu Kenji, Mori Haruyo, Kawahata Takuya, Zait su Shuichi, Nakamura Asako, de Souza Mark S., Matano Tetsuro	4. 巻 16
2. 論文標題 Estimating HIV-1 incidence in Japan from the proportion of recent infections	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Preventive Medicine Reports	6. 最初と最後の頁 100994 ~ 100994
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pmedr.2019.100994	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hiroi Satoshi, Kawahata Takuya, Furubayashi Keiichi	4. 巻 69
2. 論文標題 First isolation of human adenovirus type 85 by molecular analysis of adenoviruses in cases of urethritis	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Medical Microbiology	6. 最初と最後の頁 265 ~ 269
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1099/jmm.0.001149	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Imad Hisham Ahmed, Phumratanaprapin Weerapong, Phonrat Benjaluck, Chotivanich Kesinee, Charunwatthana Prakaykaew, Muangnoicharoen Sant, Khusmith Srisin, Tantawichien Terapong, Phadungsombat Juthamas, Nakayama Emi, Konishi Eiji, Shioda Tatsuo	4. 巻 102
2. 論文標題 Cytokine Expression in Dengue Fever and Dengue Hemorrhagic Fever Patients with Bleeding and Severe Hepatitis	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The American Journal of Tropical Medicine and Hygiene	6. 最初と最後の頁 943 ~ 950
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4269/ajtmh.19-0487	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Saito Akatsuki, Sultana Tahmina, Ode Hirota, Nohata Kyotaro, Samune Yoshihiro, Nakayama Emi E., Iwatani Yasumasa, Shioda Tatsuo	4. 巻 36
2. 論文標題 The 4th and 112th Residues of Viral Capsid Cooperatively Modulate Capsid-CPSF6 Interactions of HIV-1	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 AIDS Research and Human Retroviruses	6. 最初と最後の頁 513 ~ 521
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1089/AID.2019.0250	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Phadungsombat Juthamas, Tuekprakhon Aekkachai, Cnops Lieselotte, Michiels Johan, van den Berg Riemsdijk, Nakayama Emi.E., Shioda Tatsuo, Arien Kevin K., Huits Ralph	4. 巻 78
2. 論文標題 Two distinct lineages of chikungunya virus cocirculated in Aruba during the 2014-2015 epidemic	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Infection, Genetics and Evolution	6. 最初と最後の頁 104129 ~ 104129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.meegid.2019.104129	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Shimizu Hideaki, Saito Akatsuki, Mikuni Junko, Nakayama Emi E., Koyama Hiroo, Honma Teruki, Shirouzu Mikako, Sekine Shun-ichi, Shioda Tatsuo	4. 巻 13
2. 論文標題 Discovery of a small molecule inhibitor targeting dengue virus NS5 RNA-dependent RNA polymerase	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 PLOS Neglected Tropical Diseases	6. 最初と最後の頁 e007894 ~ e007894
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pntd.0007894	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sultana Tahmina, Mamede Joao I., Saito Akatsuki, Ode Hirotaka, Nohata Kyotaro, Cohen Romy, Nakayama Emi E., Iwatani Yasumasa, Yamashita Masahiro, Hope Thomas J., Shioda Tatsuo	4. 巻 93
2. 論文標題 Multiple Pathways To Avoid Beta Interferon Sensitivity of HIV-1 by Mutations in Capsid	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Virology	6. 最初と最後の頁 1~27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1128/JVI.00986-19	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Suzuki Keita, Nakayama Emi E., Saito Akatsuki, Egawa Akio, Sato Tairyu, Phadungsombat Juthamas, Rahim Rummana, Hasan Abu, Iwamoto Hisahiko, Rahman Mizanur, Shioda Tatsuo	4. 巻 16
2. 論文標題 Evaluation of novel rapid detection kits for dengue virus NS1 antigen in Dhaka, Bangladesh, in 2017	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Virology Journal	6. 最初と最後の頁 1~15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12985-019-1204-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Suzuki Keita, Phadungsombat Juthamas, Nakayama Emi E., Saito Akatsuki, Egawa Akio, Sato Tairyu, Rahim Rummana, Hasan Abu, Lin Marco Yung-Cheng, Takasaki Tomohiko, Rahman Mizanur, Shioda Tatsuo	4. 巻 75
2. 論文標題 Genotype replacement of dengue virus type 3 and clade replacement of dengue virus type 2 genotype Cosmopolitan in Dhaka, Bangladesh in 2017	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Infection, Genetics and Evolution	6. 最初と最後の頁 103977~103977
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.meegid.2019.103977	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Saito Akatsuki, Ode Hirotaka, Nohata Kyotaro, Ohmori Hisaki, Nakayama Emi E., Iwatani Yasumasa, Shioda Tatsuo	4. 巻 532
2. 論文標題 HIV-1 is more dependent on the K182 capsid residue than HIV-2 for interactions with CPSF6	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Virology	6. 最初と最後の頁 118~126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.virol.2019.04.012	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Watanabe Dai, Uehira Tomoko, Suzuki Sachiko, Matsumoto Erina, Ueki Takashi, Hirota Kazuyuki, Minami Rumi, Takahama Soichiro, Hayashi Kimikazu, Sawamura Morio, Yamamoto Masahiro, Shirasaka Takuma	4. 巻 19
2. 論文標題 Clinical characteristics of HIV-1-infected patients with high levels of plasma interferon- γ : a multicenter observational study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BMC Infectious Diseases	6. 最初と最後の頁 1~10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12879-018-3643-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tanaka Satoshi, Kishi Tomomi, Ishihara Akio, Watanabe Dai, Uehira Tomoko, Ishida Hisashi, Shirasaka Takuma, Mita Eiji	4. 巻 49
2. 論文標題 Outbreak of hepatitis A linked to European outbreaks among men who have sex with men in Osaka, Japan, from March to July 2018	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Hepatology Research	6. 最初と最後の頁 705~710
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/hepr.13314	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kobayakawa Takuya, Ebihara Kento, Honda Yuzuna, Fujino Masayuki, Nomura Wataru, Yamamoto Naoki, Murakami Tsutomu, Tamamura Hirokazu	4. 巻 20
2. 論文標題 Dimeric C34 Derivatives Linked through Disulfide Bridges as New HIV-1 Fusion Inhibitors	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ChemBioChem	6. 最初と最後の頁 2101~2108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/cbic.201900187	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Hikichi Yuta, Takeda Eri, Fujino Masayuki, Nakayama Emi, Matano Tetsuro, Murakami Tsutomu	4. 巻 532
2. 論文標題 HIV-1 matrix mutations that alter gag membrane binding modulate mature core formation and post-entry events	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Virology	6. 最初と最後の頁 97~107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.virol.2019.04.013	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Terada Satoko, Harada Tetsuya, Yokota Masaharu, Tsuchiya Takako, Adachi Kaori, Asaka Toshiyuki, Miura Michie, Kawahara Ryuji, Kawatsu Kentaro, Komano Jun	4. 巻 95
2. 論文標題 First isolation and characterization of vancomycin-resistant <i>Enterococcus faecium</i> harboring vanD5 gene cluster recovered from a 79-year-old female inpatient in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Diagnostic Microbiology and Infectious Disease	6. 最初と最後の頁 114883 ~ 114883
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.diagmicrobio.2019.114883	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kurata Takako, Uchino Kiyoko, Hotta Chiemi, Ogura Atsushi, Miyoshi Tatsuya, Ogawa Tomoko, Kanbayashi Daiki, Tanaka Tomoyuki, Yumisashi Takahiro, Komano Jun	4. 巻 63
2. 論文標題 Clinical value of enzyme immunoassay detecting rubella specific immunoglobulin M immediately after the disease onset	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Microbiology and Immunology	6. 最初と最後の頁 32 ~ 35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/1348-0421.12664	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下坂 馨歩、駒野 淳、浅香 敏之、今村 淳治、横幕 能行、片山 雅夫、川崎 朋範、下坂 寿希、亀井 克彦、矢田 啓二	4. 巻 60
2. 論文標題 ベトナム人HIV陽性者から分離された <i>Talaromyces marneffeii</i> によるマルネツフェイ型ペニシリウム症の1例	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本医真菌学会雑誌	6. 最初と最後の頁 15 ~ 20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11534/ishinkin.18-00008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yahara Koji, Nakayama Shu-ichi, Shimuta Ken, Lee Ken-ichi, Morita Masatomo, Kawahata Takuya, Kuroki Toshiro, Watanabe Yuko, Ohya Hitomi, Yasuda Mitsuru, Deguchi Takashi, Didelot Xavier, Ohnishi Makoto	4. 巻 4
2. 論文標題 Genomic surveillance of <i>Neisseria gonorrhoeae</i> to investigate the distribution and evolution of antimicrobial-resistance determinants and lineages	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Microbial Genomics	6. 最初と最後の頁 1 ~ 13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1099/mgen.0.000205	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kondo Makiko, Sudo Koji, Sano Takako, Kawahata Takuya, Itoda Ichiro, Iwamuro Shinya, Yoshimura Yukihiko, Tachikawa Natsuo, Kojima Yoko, Mori Haruyo, Fujiwara Hiroshi, Hasegawa Naoki, Kato Shingo	4. 巻 13
2. 論文標題 Comparative evaluation of the Geenius HIV 1/2 Confirmatory Assay and the HIV-1 and HIV-2 Western blots in the Japanese population	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0198924
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0198924	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kojima Yoko, Furubayashi Keiichi, Kawahata Takuya, Mori Haruyo, Komano Jun	4. 巻 57
2. 論文標題 Circulation of Distinct Treponema pallidum Strains in Individuals with Heterosexual Orientation and Men Who Have Sex with Men	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Clinical Microbiology	6. 最初と最後の頁 1~9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1128/JCM.01148-18	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古林敬一、小島洋子、川畑拓也	4. 巻 29
2. 論文標題 RPR陰性の第1期梅毒	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本性感染症学会誌	6. 最初と最後の頁 141~142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kömül;rlül; S, Bradley M, Smolin N, Imam S, Pauszek RF 3rd, Robia SL, Millar D, Nakayama EE, Shioda T, Campbell EM	4. 巻 14
2. 論文標題 Defects in assembly explain reduced antiviral activity of the G249D polymorphism in human TRIM5	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 1~20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0212888	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sakuragi Sayuri, Shioda Tatsuo, Sakuragi Jun-ichi	4. 巻 21
2. 論文標題 Relationship between genome packaging and Gag translation/AUG of primate lentiviruses	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Microbes and Infection	6. 最初と最後の頁 119 ~ 123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.micinf.2018.09.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Saeng-aroon Siriphan, Saipradit Nonglak, Loket Ruangchai, Klamkhai Nattapong, Boonmuang Ratrawee, Kaewprommal Pavita, Prommajan Korrakot, Takeda Naokazu, Sungkanuparph Somnuek, Shioda Tatsuo, Sangkitporn Somchai, Motomura Kazushi	4. 巻 34
2. 論文標題 External Quality Assessment Scheme for HIV-1 Drug-Resistance Genotyping in Thailand	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 AIDS Research and Human Retroviruses	6. 最初と最後の頁 1028 ~ 1035
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1089/AID.2017.0299	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Nakayama Emi E., Saito Akatsuki, Sultana Tahmina, Jin Zhuan, Nohata Kyotaro, Shibata Masato, Hosoi Miho, Motomura Kazushi, Shioda Tatsuo, Sangkitporn Somchai, Loket Ruangchai, Saeng-aroon Siriphan	4. 巻 34
2. 論文標題 Naturally Occurring Mutations in HIV-1 CRF01_AE Capsid Affect Viral Sensitivity to Restriction Factors	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 AIDS Research and Human Retroviruses	6. 最初と最後の頁 382 ~ 392
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1089/AID.2017.0212	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Koizumi Yusuke, Imadome Ken-Ichi, Ota Yasunori, Minamiguchi Hitoshi, Kodama Yoshinori, Watanabe Dai, Mikamo Hiroshige, Uehira Tomoko, Okada Seiji, Shirasaka Takuma	4. 巻 38
2. 論文標題 Dual Threat of Epstein-Barr Virus: an Autopsy Case Report of HIV-Positive Plasmablastic Lymphoma Complicating EBV-Associated Hemophagocytic Lymphohistiocytosis	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Clinical Immunology	6. 最初と最後の頁 478 ~ 483
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10875-018-0500-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Watanabe Dai, Uehira Tomoko, Suzuki Sachiko, Matsumoto Erina, Ueki Takashi, Hirota Kazuyuki, Minami Rumi, Takahama Soichiro, Hayashi Kimikazu, Sawamura Morio, Yamamoto Masahiro, Shirasaka Takuma	4. 巻 19
2. 論文標題 Clinical characteristics of HIV-1-infected patients with high levels of plasma interferon- γ : a multicenter observational study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BMC Infectious Diseases	6. 最初と最後の頁 1~10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12879-018-3643-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Siarot Lowela, Chutiwitoonchai Nopporn, Sato Hirotaka, Chang Hao, Sato Hironori, Fujino Masayuki, Murakami Tsutomu, Aono Toshihiro, Kodama Eiichi, Kuroda Kazumichi, Takei Masami, Aida Yoko	4. 巻 503
2. 論文標題 Identification of human immunodeficiency virus type-1 Gag-TSG101 interaction inhibitors by high-throughput screening	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Biochemical and Biophysical Research Communications	6. 最初と最後の頁 2970~2976
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bbrc.2018.08.079	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Sakyiamah Maxwell M., Kobayakawa Takuya, Fujino Masayuki, Konno Makoto, Narumi Tetsuo, Tanaka Tomohiro, Nomura Wataru, Yamamoto Naoki, Murakami Tsutomu, Tamamura Hirokazu	4. 巻 27
2. 論文標題 Design, synthesis and biological evaluation of low molecular weight CXCR4 ligands	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Bioorganic & Medicinal Chemistry	6. 最初と最後の頁 1130~1138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bmc.2019.02.013	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kurata Takako, Uchino Kiyoko, Hotta Chiemi, Ogura Atsushi, Miyoshi Tatsuya, Ogawa Tomoko, Kanbayashi Daiki, Tanaka Tomoyuki, Yumisashi Takahiro, Komano Jun	4. 巻 63
2. 論文標題 Clinical value of enzyme immunoassay detecting rubella specific immunoglobulin M immediately after the disease onset	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Microbiology and Immunology	6. 最初と最後の頁 32~35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/1348-0421.12664	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sakon Naomi, Sadamasu Kenji, Shinkai Takayuki, Hamajima Yousuke, Yoshitomi Hideaki, Matsushima Yuki, Takada Rika, Terasoma Fumio, Nakamura Asako, Komano Jun, Nagasawa Koo, Shimizu Hideaki, Katayama Kazuhiko, Kimura Hirokazu	4. 巻 24
2. 論文標題 Foodborne Outbreaks Caused by Human Norovirus G11.P17-G11.17?Contaminated Nori, Japan, 2017	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Emerging Infectious Diseases	6. 最初と最後の頁 920 ~ 923
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3201/eid2405.171733	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kariya Naoko, Sakon Naomi, Komano Jun, Tomono Kazunori, Iso Hiroyasu	4. 巻 24
2. 論文標題 Current prevention and control of health care-associated infections in long-term care facilities for the elderly in Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Infection and Chemotherapy	6. 最初と最後の頁 347 ~ 352
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jiac.2017.12.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下坂馨歩, 浅香敏之, 今村淳治, 横幕能行, 片山雅夫, 川崎朋範, 下坂寿希, 亀井克彦, 矢田啓二, 駒野淳	4. 巻 60
2. 論文標題 ベトナム人HIV陽性者から分離されたTalaromyces marneffeiiによるマルネツフェイ型ベニシリウム症の1例	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Med Mycol J	6. 最初と最後の頁 15 ~ 20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計104件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 9件)

1. 発表者名 川畑拓也、阪野文哉、塩野徳史、田邊雅章、朝来駿一、澤田暁宏、西岡弘晶、荒川創一
2. 発表標題 MSM向けHIV・性感染症検査キャンペーン・2019年度実績報告
3. 学会等名 日本性感染症学会第33回学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 川畑拓也、伊禮之直、真栄田哲、崎原永辰、仲宗根正、仁平 稔、久高 潤、渡邊 大、大森亮介、駒野 淳、阪野文哉、森 治代、本村和嗣
2. 発表標題 健康診断機会を利用したHIV・梅毒検査の提供
3. 学会等名 第34回日本エイズ学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 土屋菜歩、佐野貴子、カエベタ亜矢、関なおみ、城所敏英、根岸 潤、堅多敦子、川畑拓也、貞升健志、須藤弘二、加藤真吾、大木幸子、生島 嗣、今井光信、今村顕史
2. 発表標題 保健所・検査所におけるHIV検査・相談体制と実施状況および課題に関するアンケート調査
3. 学会等名 第34回日本エイズ学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 土屋菜歩、佐野貴子、カエベタ亜矢、関なおみ、城所敏英、根岸 潤、堅多敦子、川畑拓也、貞升健志、須藤弘二、加藤真吾、大木幸子、生島 嗣、今井光信、今村顕史
2. 発表標題 保健所・検査所における梅毒検査実施状況および陽性率に関するアンケート調査
3. 学会等名 第34回日本エイズ学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Phadungsombat J, Imad H, Rahman M, Nakayama EE, Kludkleeb S, Ponam T, Rahim R, Hasan A, Poltep K, Yamanaka A, Matsee W, Piyaphanee W, Phumratanaprapin W, Shioda T.
2. 発表標題 A novel sub-lineage of chikungunya virus East/Central/South African genotype Indian Ocean lineage caused sequential outbreaks in Bangladesh and Thailand.
3. 学会等名 Joint International Tropical Medicine Meeting 2020. (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Nakayama E, Tuekprakhon A, Phadungsombat J, Suzuki K, Leungwutiwong P, Shioda T.
2. 発表標題 Improved rapid diagnosis test kits of chikungunya virus infection
3. 学会等名 Joint International Tropical Medicine Meeting 2020. (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 櫛田宏幸、中内崇夫、矢倉裕輝、榊田智仁、廣田和之、上地隆史、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨
2. 発表標題 日本人のテノホビルアラフェナミド服用における推定糸球体ろ過量低下症例についての検討
3. 学会等名 第34回日本エイズ学会学術集会・総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 矢倉 裕輝、中内 崇夫、櫛田 宏幸、榊田智仁、廣田和之、上地隆史、渡邊 大、西田 恭治、上平 朝子、白阪 琢磨
2. 発表標題 日本人HIV-1感染者におけるピクテグラビルの血漿中濃度に関する検討 第1報
3. 学会等名 第34回日本エイズ学会学術集会・総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中内 崇夫、矢倉 裕輝、櫛田 宏幸、榊田 智仁、廣田 和之、上地 隆史、渡邊 大、西田 恭治、上平 朝子、白阪 琢磨
2. 発表標題 初回治療としてインテグラーゼ阻害剤を使用した患者の血清尿酸値の上昇に関する要因についての検討
3. 学会等名 第34回日本エイズ学会学術集会・総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 渡邊 大、矢倉裕輝、榊田智仁、廣田和之、上地隆史、中内崇夫、櫛田宏幸、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨
2. 発表標題 当院におけるピクテグラビル・テノホビルアラフェナミド・エムトリシタピン配合錠の処方例に関する検討
3. 学会等名 第34回日本エイズ学会学術集会・総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 菊地正、蜂谷敦子、西澤雅子、椎野禎一郎、俣野哲朗、佐藤かおり、豊嶋崇徳、渡邊 大、小島洋子、森 治代、吉村和久、（他32名）
2. 発表標題 国内新規HIV/AIDS診断症例における薬剤耐性HIV-1の動向
3. 学会等名 第34回日本エイズ学会学術集会・総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中濱智子、東政美、渡邊大、上平朝子、池田和子、杉野祐子、谷口紅、生島嗣、若林チヒロ
2. 発表標題 HIV陽性者の情報のUp dateにおける課題 ～「HIV陽性者の健康と生活に関する全国調査」の結果から（第2報）～
3. 学会等名 第34回日本エイズ学会学術集会・総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 東政美、中濱智子、渡邊大、上平朝子、池田和子、杉野祐子、伊藤紅、斎藤可夏子、若林チヒロ、生島嗣
2. 発表標題 HIV陽性者の高齢化と介護～「HIV陽性者の健康と生活に関する全国調査」の結果から（第3報）～
3. 学会等名 第34回日本エイズ学会学術集会・総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 渡邊 大
2. 発表標題 With/After COVID-19時代のARTのNew Normal
3. 学会等名 第34回日本エイズ学会学術集会・総会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 渡邊 大
2. 発表標題 HIV診療における薬物相互作用
3. 学会等名 第34回日本エイズ学会学術集会・総会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 渡邊 大
2. 発表標題 CAB/RPVなど注射製剤の将来的なポジショニングについて
3. 学会等名 第34回日本エイズ学会学術集会・総会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 渡邊 大
2. 発表標題 50分でCatch upできるHIV治療の現在と臨床で直面する今日の課題
3. 学会等名 第94回日本感染症学会総会・学術講演会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 村上 努、小早川拓也、倉上真樹、横山 勝、小谷 治、辻 耕平、佐藤裕徳、玉村啓和
2. 発表標題 カプシド二量体化を標的とした新規抗HIV-1低分子化合物の解析
3. 学会等名 第34回日本エイズ学会学術集会・総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中川 理花、浮村 聡、川西 史子、柴田 有理子、鈴木 陽一、大井 幸昌、中野 隆史、駒野 淳
2. 発表標題 大阪医科大学附属病院における2019年に分離されたESBL産生大腸菌のPOT型解析
3. 学会等名 第91回日本感染症学会西日本地方会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Minami Hama, Mayuko Yagi, Yurie Nakashima, Daiki Kanbayashi, Takako Kurata, Kosuke Yusa, Jun Komano.
2. 発表標題 CRISPR-Cas9ノックアウトスクリーンによる風疹ウイルスのヒト細胞における感染メカニズムの探索
3. 学会等名 日本薬学会 第141年会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 渡邊 大、川畑拓也、森 治代、小島洋子、駒野 淳、塩田達雄、中山英美、村上 努、榎田智仁、廣田和之、上地隆史、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨
2. 発表標題 プロテアーゼ領域と逆転写酵素領域の配列を用いた新型変異HIV 感染のスクリーニング法に関する検討
3. 学会等名 第33回近畿エイズ研究会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森 治代、小島洋子、阪野文哉、川畑拓也
2. 発表標題 HIV確認検査陽性検体におけるHIVの分子疫学的解析
3. 学会等名 第33回近畿エイズ研究会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 貞升健志、長島真美、千葉隆司、川畑拓也
2. 発表標題 地方衛生研究所におけるHIV検査に関する精度管理調査から得られたこと
3. 学会等名 第78回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川畑拓也
2. 発表標題 新しいHIV確認検査試薬「Geenius HIV-1/2」の特徴について
3. 学会等名 第33回日本エイズ学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川畑拓也、阪野文哉、小島洋子、森 治代、本村和嗣、上原大知、伊禮之直、真栄田哲、崎原永辰、仲宗根正、仁平 稔、久高 潤、渡邊大、大森亮介、駒野 淳
2. 発表標題 健診機会を利用したHIV・梅毒検査提供に向けた検討
3. 学会等名 第33回日本エイズ学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川畑拓也、砂山智子、山田香保理、森川哲也、阪野文哉、森 治代
2. 発表標題 ダイナスクリーン・HIV Combo抗原偽陽性事例の検討
3. 学会等名 第33回日本エイズ学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 土屋菜歩、佐野貴子、近藤真規子、カエベタ亜矢、関なおみ、城所敏英、根岸 潤、堅多敦子、川畑拓也、貞升健志、須藤弘二、加藤真吾、大木幸子、生島 嗣、今井光信、今村顕史
2. 発表標題 保健所・検査所におけるHIV検査・相談体制と実施状況および課題に関するアンケート調査
3. 学会等名 第33回日本エイズ学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 土屋菜歩、佐野貴子、近藤真規子、カエベタ亜矢、関なおみ、城所敏英、根岸 潤、堅多敦子、川畑拓也、貞升健志、須藤弘二、加藤真吾、大木幸子、生島 嗣、今井光信、今村顕史
2. 発表標題 保健所・検査所における梅毒検査実施状況および陽性率に関するアンケート調査
3. 学会等名 第33回日本エイズ学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森 治代、小島洋子、阪野文哉、川畑拓也、森田 諒、小西啓司、麻岡大裕、白野倫徳、古西 満
2. 発表標題 抗レトロウイルス療法下におけるHIV-1プロウイルスの動態
3. 学会等名 第33回日本エイズ学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古林敬一、小島洋子、川畑拓也
2. 発表標題 梅毒の届出基準に関する検討
3. 学会等名 第32回日本性感染症学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川畑拓也
2. 発表標題 梅毒核酸検査（梅毒トレポネーマPCR法）の実際
3. 学会等名 第32回日本性感染症学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 出野結己、山本啓裕、岡崎伸次、松本美枝、藤川利彦、川畑拓也、古林敬一
2. 発表標題 Treponema pallidum亜種感染例でのTP抗体、脂質抗体の測定結果について
3. 学会等名 第32回日本性感染症学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川畑拓也
2. 発表標題 リアルタイムPCR法を用いた梅毒核酸迅速検査
3. 学会等名 第32回日本性感染症学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川畑拓也、阪野文哉、岩佐 厚、亀岡 博、菅野展史、清田敦彦、近藤雅彦、杉本賢治、高田昌彦、田端運久、中村幸生、古林敬一、塩野徳史、田邊雅章
2. 発表標題 MSM向けHIV・性感染症検査キャンペーン・2018年度実績報告
3. 学会等名 第32回日本性感染症学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川畑拓也、阪野文哉、岡 伸俊、今西 治、吉田光宏、福原 恒、朝来駿一、塩野徳史、澤田暁宏、西岡弘晶、荒川創一
2. 発表標題 阪神地区在住MSM向けHIV・性感染症検査キャンペーン・2019年度速報
3. 学会等名 第32回日本性感染症学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Emi E.Nakayama, Keita Suzuki, Akatsuki Saito, Juthamas Phadungsombat, Narinee Srimark, Aekkachai Tuekprakhon, Orapin Puiptom, Tadahiro Sasaki, Pornsawan Leungwutiwong, Tatsuo Shioda
2. 発表標題 Development of point-of-care diagnostic devices for dengue and chikungunya infections.
3. 学会等名 アジア・アフリカリサーチフォーラム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akatsuki Saito, Hideski Simizu, Junko Mikuni, Emi E.Nakayama, Hiroo Koyama, Teruki Honma, Mikako Shirouzu, Shun-ichi Sekine and Tatsuo Shioda.
2. 発表標題 Large scale screening for small molecule inhibitors targeting four serotypes of Dengue viruses.
3. 学会等名 アジア・アフリカリサーチフォーラム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tatsuo Shioda.
2. 発表標題 Mosquito-borne viral diseases in Thailand.
3. 学会等名 アジア・アフリカリサーチフォーラム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Keita Suzuki, Juthamas Phadungsombat, Emi E. Nakayama, Akatsuki Saito, Akiko Egawa, Tairyu Sato, Rummana Rahim, Abu Hasan, Marco yung-Cheng Lin, Tomohiro Takasaki, Mizanur Rahman, Tatsuo Shioda
2. 発表標題 Emergence of a new genotype of dengue virus type 3 and new lineage of dengue virus type 2 genotype Comopolitan in Dhaka, Bangladesh 2017.
3. 学会等名 第67回日本ウイルス学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shimizu H, Saito A, Mikuni J, Nakayama EE, Koyama H, Honma T, Shirouzu M, Sekine SI, Shioda T.
2. 発表標題 Discovery of a small molecule inhibitor targeting dengue virus NS5 RNA-dependent RNA polymerase.
3. 学会等名 第67回日本ウイルス学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Keita Suzuki, Emi Nakayama, Tatsuo Shioda
2. 発表標題 Evaluation of novel rapid detection kits for dengue virus NS1 antigen in Dhaka, Bangladesh, in 2017.
3. 学会等名 第67回日本ウイルス学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 廣田和之、渡邊 大、小泉祐介、坂梨大輔、上地隆史、西田恭治、竹田真未、田栗貴博、小澤健太郎、三鴨廣繁、白阪琢磨、上平朝子
2. 発表標題 当院のHIV感染者の皮膚軟部組織感染症における市中感染型メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染に関する検討
3. 学会等名 第33回近畿エイズ研究会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 矢倉裕輝、渡邊 大、中内崇夫、櫛田宏幸、西田恭治、宮部貴識、佐光留美、上平朝子、山内一恭、白阪琢磨
2. 発表標題 日本人HIV-1感染症患者における投与開始早期のテノホビル血漿トラフ濃度高値とテノホビルジソプロキシシルフマル酸塩の長期投与時の腎機能関連有害事象による投与中止の関連
3. 学会等名 第33回近畿エイズ研究会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高野浩司、西本深佑、山崎弘輝、村上皓紀、館 哲郎、木谷知樹、金村米博、中島 伸、榊田智仁、来住知美、廣田和之、上地隆史、渡邊大、西田恭治、上平朝子、藤中俊之
2. 発表標題 HIV陽性患者の中樞神経病変 -脳生検術の必要性-
3. 学会等名 日本脳神経外科学会第78回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 5. 蜂谷敦子、佐々木悟、伊藤俊広、渦永博之、岡 慎一、渡邊 大、白阪琢磨、南 留美、山本政弘、松田昌和、重見 麗、岡崎玲子、岩谷靖雅、横幕能行、杉浦 互、吉村和久、菊地 正
2. 発表標題 薬剤耐性HIV調査ネットワーク、国内新規HIV/AIDS診断症例における薬剤耐性HIV-1の動向
3. 学会等名 第73回国立病院総合医学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 今橋真弓、岡 慎一、伊藤俊広、山本政弘、渡邊 大、宇佐美雄司、池田和子、本田美和子、吉野宗弘、横幕能行
2. 発表標題 エイズ診療で国立病院機構が地域で果たすべき役割
3. 学会等名 第73回国立病院総合医学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 矢倉裕輝、櫛田宏幸、渡邊 大、中内崇夫、西田恭治、宮部貴識、佐光留美、上平朝子、白阪琢磨、山内一恭
2. 発表標題 ラルテグラビル1日1回1200mg投与における血漿中トラフ濃度に関する検討
3. 学会等名 第73回国立病院総合医学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中内崇夫、矢倉裕輝、櫛田宏幸、榎田智仁、廣田和之、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨
2. 発表標題 当院におけるリルピビルン/エムトリシタピン/テノホビルアラフェナミドフマル酸塩配合錠の使用状況について
3. 学会等名 第33回日本エイズ学会学術集会・総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 櫛田宏幸、中内崇夫、矢倉裕輝、榎田智仁、廣田和之、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨
2. 発表標題 ラルテグラビルカリウムの投与法間におけるトラフ血漿中濃度の比較検討
3. 学会等名 第33回日本エイズ学会学術集会・総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 矢倉裕輝、中内崇夫、櫛田宏幸、榎田智仁、廣田和之、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨
2. 発表標題 テノヒルアラフェナミド投与時のテノヒル血漿トラフ濃度に関する検討
3. 学会等名 第33回日本エイズ学会学術集会・総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 蜂谷敦子、佐藤かおり、豊嶋崇徳、伊藤俊広、林田庸総、岡 慎一、瀧永博之、古賀道子、長島真美、貞升健志、近藤真規子、椎野禎一郎、須藤弘二、加藤真吾、谷口俊文、猪狩英俊、寒川 整、中島秀明、吉野友祐、堀場昌英、太田康男、茂呂 寛、渡邊珠代、松田昌和、重見 麗、岡崎玲子、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊 大、小島洋子、森 治代、他
2. 発表標題 国内新規HIV/AIDS診断症例における薬剤耐性HIV-1の動向
3. 学会等名 第33回日本エイズ学会学術集会・総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡邊 大、上平朝子、鍵浦文子、松山亮太、梯 正之、砂川富正、白阪琢磨
2. 発表標題 当院の新規診断HIV感染者における診断時CD4陽性Tリンパ球数と血中HIV-RNA量の年次推移に関する検討
3. 学会等名 第33回日本エイズ学会学術集会・総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡邊 大
2. 発表標題 HIV感染症の予後と死因Update。シンポジウム「治療の手引き」。
3. 学会等名 第33回日本エイズ学会学術集会・総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡邊 大
2. 発表標題 主要中核拠点病院での抗レトロウイルス治療の実際。シンポジウム「治療の手引き」。
3. 学会等名 第33回日本エイズ学会学術集会・総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岩橋佑樹、廣田和之、上地隆史、渡邊 大、榎田智仁、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨
2. 発表標題 HIV感染者において市中感染型MRSAによる皮膚軟部組織感染症と菌血症を認めた一例
3. 学会等名 第227回日本内科学会近畿地方会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yasuharu Kawamoto, Satoshi Tanaka, Akio Ishihara, Dai Watanabe, Tomoko Uehira, Hisashi Ishida, Takuma Shirasaka, Eiji Mita.
2. 発表標題 Immune reconstitution inflammatory syndrome and CD4 lymphocyte count as predictive factors for HBsAg seroclearance in HBV/HIV patients treated with antiretroviral therapy.
3. 学会等名 European Association for the Study of Liver, The International Liver Congress 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroki Yagura, Dai Watanabe, Takao Nakauchi, Hiroyuki Kushida, Kosuke Tomishima, Kazuyuki Hirota, Takashi Ueji, Yasuharu Nishida, Takashi Miyabe, Rumi Sako, Kazutaka Yamauchi, Kunio Yamazaki, Tomoko Uehira, Takuma Shirasaka.
2. 発表標題 Discontinuation of long-term dolutegravir treatment is associated with UGT1A1 gene polymorphisms.
3. 学会等名 10th IAS Conference on HIV Science (IAS 2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yujiro Yoshihara, Kenji Kato, Dai Watanabe, Takuma Shirasaka, Toshiya Murai.
2. 発表標題 Differences of cognition and brain white matter between cART-treated HIV-infected patients with low and high CD4 nadir.
3. 学会等名 NEUROSCIENCE 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村上 努、海老原健人、小早川拓也、藤野真之、児玉栄一、玉村啓和
2. 発表標題 二量体化HIV-1膜融合阻害剤の作用機序
3. 学会等名 第67回日本ウイルス学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村上 努、海老原健人、小早川拓也、藤野真之、児玉栄一、玉村啓和
2. 発表標題 二量体化HIV-1膜融合阻害薬の作用機構
3. 学会等名 第33回日本エイズ学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 土屋孝弘、谷口菜優、中村光希、蓮井良美、丸山奈緒子、宮本勝城、良原栄策、駒野 淳
2. 発表標題 多剤耐性アシネトバクターに対する新規抗菌物質の開発
3. 学会等名 第31回微生物シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 倉田貴子、上林大起、駒野 淳、本村和嗣
2. 発表標題 成人麻疹患者における補助的診断マーカーの探索
3. 学会等名 第67回日本ウイルス学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Naomi Sakon, Rika Takada, Tomoko Takahashi, You Uyeki, Kazushi Motomura, Jun Komano.
2. 発表標題 Analysis of Longitudinal Surveillance Data of Norovirus Infection in Three Remote Locations in Japan.
3. 学会等名 7th International Calicivirus Conference. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川畑拓也、小島洋子、森 治代、本村和嗣、渡邊 大、大森亮介、駒野 淳、福武勝幸
2. 発表標題 健診センター・人間ドックにおけるHIV検査の現状に関するアンケート調査結果
3. 学会等名 第32回近畿エイズ研究会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小島洋子、川畑拓也、森 治代、駒野 淳
2. 発表標題 HIV陽性者におけるHBVおよび梅毒トレポネーマの感染実態
3. 学会等名 第32回近畿エイズ研究会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川畑拓也、小島洋子、古林敬一
2. 発表標題 口腔・咽頭検体の梅毒トレポネーマ遺伝子PCRにおいて梅毒陽性と誤認しかけた事例
3. 学会等名 第7回日本性感染症学会関西支部総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川畑拓也、小島洋子、古林敬一
2. 発表標題 モバイル リアルタイムPCR装置（PCR1100）を用いた梅毒トレポネーマPCR法の構築
3. 学会等名 第31回日本性感染症学会学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川畑拓也、小島洋子、森 治代、井戸田一朗、近藤真規子、佐野貴子、貞升健志、長島真美、高田 昇、加藤真吾、須藤弘二、今村顕史
2. 発表標題 エビデンスに基づいた専門職向けHIV検査Q&A集の作成
3. 学会等名 第32回日本エイズ学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小島洋子、川畑拓也、森 治代、本村和嗣、渡邊 大、大森亮介、駒野 淳、福武勝幸
2. 発表標題 職域での健診機会を利用した健診センター・人間ドック施設におけるHIV検査の現状調査
3. 学会等名 第32回日本エイズ学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 近藤真規子、佐野貴子、長島真美、貞升健志、川畑拓也、加藤真吾、今村顕史
2. 発表標題 全国地方衛生研究所におけるHIV検査実施状況
3. 学会等名 第32回日本エイズ学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 貞升健志、長島真美、北村有里恵、熊谷遼太、根岸あかね、新開敬行、松岡佐織、川畑拓也、近藤真規子、今村顕史
2. 発表標題 全国の地方衛生研究所を対象としたHIV検査精度管理の実施
3. 学会等名 第32回日本エイズ学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 土屋菜歩、佐野貴子、近藤真規子、堅多敦子、石丸雄二、城所敏英、カエベタ亜矢、川畑拓也、貞升健志、須藤弘二、加藤真吾、大木幸子、今井光信、今村顕史
2. 発表標題 健所・検査所におけるHIV検査・相談実施状況および陽性率に関するアンケート調査
3. 学会等名 第32回日本エイズ学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 土屋菜歩、佐野貴子、近藤真規子、堅多敦子、石丸雄二、城所敏英、カエベタ亜矢、川畑拓也、貞升健志、須藤弘二、加藤真吾、大木幸子、今井光信、今村顕史
2. 発表標題 保健所・検査所における梅毒検査実施状況および陽性率に関するアンケート調査
3. 学会等名 第32回日本エイズ学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 齊藤孝子、松浦基夫、川畑拓也、森 治代、小島洋子
2. 発表標題 HIV急性感染におけるHIVAg/Abの発光強度とHIV-1 RNA定量の乖離について
3. 学会等名 第32回日本エイズ学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akatsuki Saito, Joao I Mamede, Tahmina Sultana, Hirotaka Ode, Kyoutaro Nohata, Emi Nakayama, Y asumasa Iwatani, Thomas J Hope, Tatsuo Shioda
2. 発表標題 Multiple pathways to avoid IFN- sensitivity of HIV-1 by mutants capsid
3. 学会等名 Retroviruses 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nakayama EE, Saito A, Sultana T, Jin Z, Nohata K, Shibata M, Hosoi M, Motomura K, Shioda T, Sangkitporn S, Locket R, Saeng-Aroon S
2. 発表標題 Naturally Occurring Mutations in HIV-1 CRF01_AE Capsid Affect Viral Sensitivity to Restriction Factor
3. 学会等名 The 17th Awaji International Forum on Infection and Immunity
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akatsuki Saito, Joao I Mamede, Tahmina Sultana, kyoutaro Nohata, Emi E Nakayama, Tatsuo Shioda, Thomas J Hope
2. 発表標題 The Q4R mutation accelerates Kinetics of reverse transcription and initiation of uncoating of IFN- hypersensitive HIV-1 capsid mutant
3. 学会等名 第66回日本ウイルス学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 塩田達雄
2. 発表標題 エイズ基礎研究の歴史と展望
3. 学会等名 第32回日本エイズ学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 5. 齊藤 暁, 大出裕高, 野畑享太郎, 大森久樹, 中山英美, 岩谷靖雅, 塩田達雄
2. 発表標題 カプシド182番目アミノ酸残基のCPSF6結合への寄与はHIV-1とHIV-2で異なる
3. 学会等名 第32回日本エイズ学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡邊 大
2. 発表標題 TAFの安全性評価
3. 学会等名 第92回日本感染症学会総会・学術講演会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡邊 大
2. 発表標題 薬剤耐性HIVの臨床経験と抗HIV薬の薬物動態
3. 学会等名 第32回日本エイズ学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiroki Yagura, Dai Watanabe, Takao Nakauchi, Kosuke Tomishima, Yasuharu Nishida, Munehiro Yoshino, Kunio Yamazaki, Tomoko Uehira and Takuma Shirasaka
2. 発表標題 ASSOCIATION OF TENOFOVIR LEVEL AND DISCONTINUATION DUE TO IMPAIRED RENAL FUNCTION
3. 学会等名 HIV drug therapy Glasgow 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊熊素子、西田恭治、山本雄大、湯川理己、来住知美、廣田和之、上地隆史、渡邊大、上平朝子、白阪琢磨
2. 発表標題 血友病個別化治療時代におけるアルブトレペノコグアルファによる4週間隔定期補充療法の可能性
3. 学会等名 第40回日本血栓止血学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中内崇夫、矢倉裕輝、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨
2. 発表標題 HIV感染者における高尿酸血症の関連因子に関する検討
3. 学会等名 第67回日本感染症学会東日本地方会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 廣田和之、上地隆史、北島平太、寺前晃介、来住知美、伊熊素子、渡邊大、西田恭治、白阪琢磨、上平朝子
2. 発表標題 両側内因性眼内炎で失明に至った糖尿病患者の一例
3. 学会等名 第67回日本感染症学会東日本地方会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 来住知美、渡邊 大、北島平太、寺前晃介、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、西田恭治、上平朝子、三田英治、白阪琢磨
2. 発表標題 大阪のエイズ診療ブロック拠点病院におけるA型急性肝炎の流行
3. 学会等名 第88回日本感染症学会西日本地方会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 廣田和之、山本雄大、渡邊 大、北島平太、寺前晃介、来住知美、上地隆史、伊熊素子、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨
2. 発表標題 溶血性貧血を契機に多中心性キャスルマン病と診断されたHIV感染者の一例
3. 学会等名 第32回日本エイズ学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤賢嗣、吉原雄二郎、渡邊 大、福本真司、和田恵子、安尾利彦、白阪琢磨、村井俊哉
2. 発表標題 HIV関連神経認知障害（HAND）と脳構造
3. 学会等名 第32回日本エイズ学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上地隆史、渡邊 大、北島平太、寺前晃介、来住知美、廣田和之、伊熊素子、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨
2. 発表標題 細胞性免疫能が低下したHIV-1感染者におけるLDHと -Dグルカンのニューモシスチス肺炎の診断能評価
3. 学会等名 第32回日本エイズ学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 来住知美、渡邊 大、北島平太、寺前晃介、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、西田恭治、下司有加、松岡恭子、東 政美、中濱智子、上平朝子、白阪琢磨
2. 発表標題 自発検査で判明した新規HIV感染者の受検動機
3. 学会等名 第32回日本エイズ学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 横幕能行、今橋真弓、伊藤俊広、山本政弘、岡 慎一、豊嶋崇徳、茂呂 寛、渡邊珠代、渡邊 大、藤井輝久
2. 発表標題 エイズ診療の拠点病院の診療機能評価と課題の検討
3. 学会等名 第32回日本エイズ学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡崎玲子、蜂谷敦子、佐藤かおり、豊嶋崇徳、佐々木悟、伊藤俊広、林田庸総、岡 慎一、渦永博之、古賀道子、長島真美、貞升健志、近藤真規子、椎野禎一郎、須藤弘二、加藤真吾、谷口俊文、猪狩英俊、寒川 整、石ヶ坪良明、吉野友祐、太田康男、茂呂 寛、渡邊珠代、松田昌和、重見 麗、岩谷靖雅、渡邊 大、小島洋子、森 治代、他11名
2. 発表標題 国内新規HIV/AIDS診断症例における薬剤耐性HIV-1の動向
3. 学会等名 第32回日本エイズ学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡邊 大、上平朝子、矢倉裕輝、富島公介、中内崇夫、北島平太、寺前晃介、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、西田恭治、白阪琢磨
2. 発表標題 TDFからTAFに変更後の腎機能検査値の推移に対する併用キードラッグの影響に関する検討
3. 学会等名 第32回日本エイズ学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平朝子、渡邊 大、矢倉裕輝、富島公介、中内崇夫、北島平太、寺前晃介、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、西田恭治、白阪琢磨
2. 発表標題 当院の2剤レジメンの現状
3. 学会等名 第32回日本エイズ学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 富島公介、中内崇夫、矢倉裕輝、北島平太、寺前晃介、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨
2. 発表標題 ラルテグラビル/エトラピリン/ダルナビル/リトナビルレジメンの長期投与症例についての検討
3. 学会等名 第32回日本エイズ学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 寺前晃介、北島平太、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨
2. 発表標題 ST合剤で薬疹、ペンタミジンでアナフィラキシー様症状を起こした難治性ニューモシスチス肺炎の一例
3. 学会等名 第32回日本エイズ学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本雄大、伊熊素子、渡邊 大、湯川理己、来住知美、廣田和之、上地隆史、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨
2. 発表標題 ニューモシスチス肺炎に肺ノカルジア症を合併した後天性免疫不全症候群の1例
3. 学会等名 第32回日本エイズ学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 北島平太、廣田和之、寺前晃介、来住知美、伊熊素子、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨
2. 発表標題 抗HIV療法後に肝臓及び脾臓の病変増悪を認めた肺結核の一例
3. 学会等名 第32回日本エイズ学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Murakami T, Fujino M, Yokoyama M, Kobayakawa T, Takeuchi H, Masuda T, Kotani O, Tamamura H, Sato H
2. 発表標題 Biological and molecular characterization of a novel anti-HIV-1 compound created by in silico design and de novo organic synthesis
3. 学会等名 Cold Spring Harbor Laboratory 43rd annual meeting on Retroviruses (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Murakami T, Ebihara K, Fujino M, Honda Y, Kobayakawa T, Nomura W, Tamamura H
2. 発表標題 Development of new membrane fusion inhibitors against HIV-1 by dimerization strategy
3. 学会等名 第66回日本ウイルス学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kimura Y, Niimi Y, Katakura H, Suzuki T, Murakami, T, Kodama E, Abe H
2. 発表標題 Development of 2'-Seleno nucleoside analogs as irreversible inhibitors for viral polymerases
3. 学会等名 第66回日本ウイルス学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Niimi Y, Katakura H, Suzuki T, Takeda A, Murakami T, Kodama E, Abe H
2. 発表標題 Development of 2'- modified nucleosides for irreversible viral polymerases inhibitor
3. 学会等名 第66回日本ウイルス学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村上 努、木村康明、新美結士、藤野真之、片倉秀雄、鈴木哲朗、児玉栄一、阿部 洋
2. 発表標題 ウイルスポリメラーゼの不可逆阻害を目指した新規2'-& セレノ核酸アナログの創製
3. 学会等名 第32回日本エイズ学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 L. Siarot, N. Chutiwitoonchai, 佐藤洋隆、H. Chang、小谷 治、横山 勝、佐藤裕徳、藤野真之、村上 努、近藤恭光、本田香織、長田裕之、上田一樹、伊藤嘉浩、青野俊裕、児玉栄一、黒田和道、武井正美、間 陽子
2. 発表標題 Characterization of novel HIV-1 inhibitors targeting Gag-TSG101 interaction
3. 学会等名 第32回日本エイズ学会学術集会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	塩田 達雄 (Shioda Tatsuo) (00187329)	大阪大学・微生物病研究所・教授 (14401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	渡邊 大 (Watanabe Dai) (10372624)	独立行政法人国立病院機構大阪医療センター（臨床研究センター）・その他部局等・研究員 (84414)	
研究分担者	森 治代 (Mori Haruyo) (20250300)	地方独立行政法人 大阪健康安全基盤研究所・微生物部・総括研究員 (84407)	
研究分担者	村上 努 (Murakami Tsutomu) (50336385)	国立感染症研究所・エイズ研究センター・主任研究官 (82603)	
研究分担者	駒野 淳 (Komano Jun) (60356251)	大阪薬科大学・薬学部・教授 (34413)	
研究分担者	小島 洋子 (Kojima Yoko) (70291218)	地方独立行政法人 大阪健康安全基盤研究所・企画部・主任研究員 (84407)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	中山 英美 (Makayama Emi)	大阪大学・微生物病研究所・准教授 (14401)	
研究協力者	松浦 基夫 (Matsuura Motoo)	堺市立総合医療センター	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	古西 満 (Konishi Mitsuru)	奈良県立医科大学	
研究協力者	宇野 健司 (Uno Kenji)	南奈良総合医療センター	
研究協力者	白野 倫徳 (Shirano Michinori)	大阪市立総合医療センター	
研究協力者	澤田 暁宏 (Sawada Akihiro)	兵庫医科大学	
研究協力者	古林 敬一 (Furubayashi Keiichi)	そねざき古林診療所	
研究協力者	岩佐 厚 (Iwasa Atsushi)	岩佐クリニック	
研究協力者	木村 博子 (Kumura Hiroko)	木村クリニック	
研究協力者	亀岡 博 (Kameoka Hiroshi)	亀岡クリニック	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	田端 運久 (Tabata Kazuhisa)	田端医院	
研究協力者	菅野 展史 (Kanno Nobuhumi)	菅野クリニック	
研究協力者	高田 昌彦 (Takada Masahiko)	高田泌尿器科	
研究協力者	近藤 雅彦 (Kondo Masahiko)	近藤クリニック	
研究協力者	中村 幸生 (Nakamura Yukio)	中村クリニック	
研究協力者	杉本 賢治 (Sugimoto Kenji)	京橋杉本クリニック	
研究協力者	清田 敦彦 (Kiyota Atsuhiko)	清田クリニック	
研究協力者	石川 泰章 (Ishikawa Yasuaki)	石川泌尿器科	

6. 研究組織 (つづき)

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	笠井 大介 (Kasai Daisuke)	笠井医院	
研究協力者	石井 豊 (Ishii Yutaka)	石井クリニック	
研究協力者	前田 史一 (Maeda Fumikazu)	まえだクリニック	
研究協力者	荒川 創一 (Arakawa Soichi)	三田市民病院	
研究協力者	岡 伸俊 (Oka Nobutoshi)	岡クリニック	
研究協力者	今西 治 (Imanishi Osamu)	いまにし泌尿器科	
研究協力者	吉田 光宏 (Yoshida Mitsuhiro)	吉田泌尿器科	
研究協力者	福原 恒 (Fukuhara Tadashi)	平成泌尿器科クリニック	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	西岡 弘晶 (Nishioka Hiroaki)	神戸市立医療センター中央市民病院	
研究協力者	青木 理恵子 (Aoki Rieko)	NPO法人CHARM	
研究協力者	塩野 徳史 (Shiono Satoshi)	MASH大阪	
研究協力者	朝来 駿一 (Asago Shunichi)	ふれんどりーKOB E	
研究協力者	田邊 雅章 (Tanabe Masaaki)	大阪府健康医療部	
研究協力者	木下 優 (Kinoshita Masaru)	大阪府健康医療部	
研究協力者	新海 のり子 (Shinkai Noriko)	大阪府健康医療部	
研究協力者	福村 沙織 (Fukumura Saori)	大阪府健康医療部	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	阪野 文哉 (Banno Fumiya)	大阪健康安全基盤研究所	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関